

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

<p>経験したこと、学んだこと、今後の課題等</p>	<p>・環境整備 — 効率の良い掃除方法を学んだ。床を清潔にしておくことの大切さ 砂場の屋根のネット具より替え → 快適かつ安全な保育につながる 消毒作業 製作物の飾りつけ → 反逆の作品を見たり、季節感を楽しむ 水あそびの片付け</p> <p>・行事 — 地震体験 — 普段体験できなかったことをさせてもらった。 子どもと自分の安全を確保しつづける声かけも必死だと学んだ</p> <p>水遊び — 様々な方法で水に触れられるようにあることで、慣れることができるようにしていた。 土を握り返しておいたり、ハシロを設置するけど、事前準備ができていたと分かった。</p> <p>・子どもとの関わり — 年齢による差を目で見て確認できた。 3歳未満は特に成長が早いので、1人ひとりでスタイルが全く違い、 把握と連携の大切さを実感した</p> <p>・4年間の中で実習を行い、経験を積んでいても、自分の認識の甘さや考えの浅さを実感 することが多かった。この実地体験の中で保育士に教えていたことにしっかりと次に 活かしていきたい。特に保育における安全管理と保育士同士の連携についてはもう一度自分 の中で反省、学び直しをしていきたい。</p>
<p>教員より 実地体験実習は、<u>医療的知識</u>を習得することに1つの意義がある。 自分が親になった時にも役立つ 加えて、<u>保育現場</u>と<u>実習生</u>の双方にメリットがある。実習とは違う立場 活気が出る 技術向上 で園での保育に参加できる為、興味で伸び伸びと実習を行って できる。(例) 観察に力を注ぐことができる、1人に注目して見ることができる</p> <p>・自分らしく出せるようになる。争いが少なくなる。 ・体調管理 ・矢張り、奪い取り口に出して伝える (おいかと思てのこと)</p>	<p>グループワーク → 自分が体験して いたことを知る ことのできる → 学びが広がる</p>
<p><グループワーク> ・健康 — 就業活動・午・グループ活動 → 目標や生きがいが大切 ・病児 — 拡大が必須 ・子ども園 — 先生一人では大変 → 計画大切 ◎病児に対する知識、スキルステップ意識 ・病児 — 実態を学んだ。新しいことを始めるには努力と継続 ・病院 — 声かけや表情が子どもに伝わる - 味違った保育士になるために ・新保 — 「めりかどう」がよく言われる → 連携</p> <p>園児の成長に気付いた 病院 和やかな雰囲気に入社 エレベーターの使い方</p>	<p>・病院 — 嫌なイメージを払って持つようにする。 - 一番に相談を受けられる立場 だからしっかりと対応 ・病児 — 受け入れの難しさ ・子ども園 — 補助の先生の重要性 職員配置 ◎病児も含めた保育についての知識 ・病児：病児から学びたいは 専門知識と大切 ◎ 夫々の関係が実習時と違うから、違う視点で見ると 先生の役割のものが見られる 子どもの成長 子どもの成長のサポート、注目された、前へ 目には</p>

振り返りの大切さ

◎ 事例の関わり

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

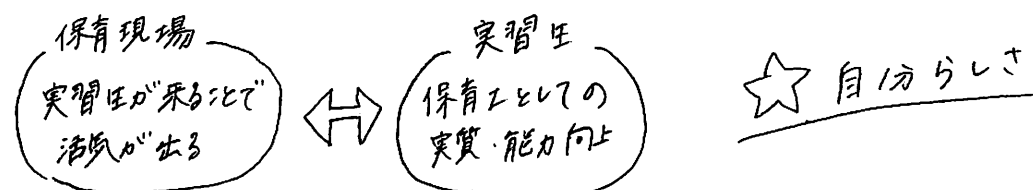
経験したこと、学んだこと、今後の課題等

- ・保育実習、教育実習では、4歳児と5歳児しか担当をレシシとかがなかったのに、この実地体験実習で、3歳児クラスに入り、一番に過ぎる中で、新しい発見がたくさんあった。
- ・担当のクラスがほそりと決められていなかったのと、観察実習などもあり、いつもの実習よりも、子ども一人ひとりの動きや言葉、子ども同士の関わりなど、得られるものが多くあった。
- ・環境整備を行った時は、保育実習では経験できないような所をさせていただけ、どのようなことを意識しながら整備を行っているのか、知ることができてよかった。
- ・3歳未満児と関わることがないので、3歳さんとの関わり方を身に付けていきたい。
- ・季節の行事や植物、食べ物の知識を身に付けてい。

教員より

「実地体験実習」

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的・継続的に関わる。
- ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する。



<グループワーク>

- ・実習では経験できなかった壁面製作をすることができ、いろいろなことを学んだ。
- ・病児保育で、保育者の重要な役割を知れた。
- ・発達の違いを踏まえ、集団としての遊びを援助することの難しさを知った。
- ・障害のある方と関わり、「自立に向けての支援」と「実態に合わせた支援」について様々なことを学んだ。
- ・たくさんの方の視点から園を見ることができ、様々なことを知れた。
- ・病児保育で、保育士も医療的な知識、施設の重要性を学んだ。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

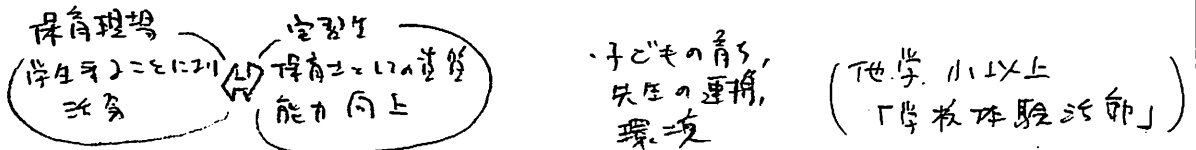
経験したこと、学んだこと、今後の課題等

様々な子どもに出会った。病児保育の成り立ち、小児科の診察、病児ミニユール実習、が幅広く学んだ。実習とは違い、ボランティアとして1歩下がって見てみると、園の日常がうかがえる。園によっても特色が異なり、地域によっても子どもによって保育が変化するということを感じた。実態の異なる子どもに出会い、^{思いを知ら}理解を深め、援助を考えていくことで、保育の幅が広がると感じた。先生方の対応も草花の扱い方、活動の流れ、年齢別の発達等も実際に見て自分が指導するときに際、材料にもなると感じた。先生方の談話の中にも地域の人と関わりを強さは、安心な環境作りのしつと感じる。一ト一トに寄り添い援助をしていくことと、集団として見るとき、どちらも大切であるため協働して保育の質を高め一筋に子育てしていきたい。

教員より

「実地体験実習」(独自進捗)

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的・組織的に関与。
- ② 医療・病児保育の現場に関わり医療的知識を修得する。



- 知識の習得に活かせる

<グループワーク>

- ・病児 - 産科でなく産科をこえてまた 事例 ~~を~~ 設定の重要性
 - ・病院 - 病院と連携の大切さ。つながり - 子どものいるその状態しごと
(先生と連携 どのように保育)
 - ・保育所 - 言葉で「アタシ」 - 毎日知らせているから成長が早い等
手作りが大事というところ、補助・補の先生への働き
- ~~実習~~ 実習とつながって より関与のこころ 実践226 教材作成
困ったときの対処法 247、実習とは違う年齢

自分らしい！
隣の先生とよく話し
先生の関わり
を！お話し
保教
福祉
はらト

新しいこと挑戦 意欲大

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

○ 経験したこと

子どもの観察、日々の業務、雑務の片付け、保育のイテリ教材づくり
① トイレ掃除 ② 感染症対策

○ 学んだこと

- ・ 子どもの成長のペースが異なる
- ・ 支援が必要な子の援助の方法
- ・ 自由保育の大切さ
- ・ 保育士同士の関係は良くするために、遊びの種類も(設定保育)心がけてほしい(保育視点)
- ・ 発達段階が違っていて、設定保育はどのようにしていくべきか
- ・ 主眼点である先生の役割/働き方
- ・ 副眼点である先生の役割/働き方
- ・ 今までの保育の場での保育の仕方の違い
- ・ 遊びの種類(設定保育)
- ・ 手作りおもちゃをどう日々の中で作っていくか

○ 今後の課題

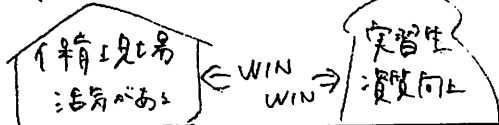
- ・ 設定保育を行う際、子どもに合わせた保育
- ・ 子育て支援について
- ・ 苦手な保育士が現れたときの対策(どう対応していくか)
- ・ 保護者が過度な要求をしてくる時/怒っている時

自分らが出た隣の先生と話をすること、自分から話をして、心の中を話せる

教員より

新見公立大学「実地体験実習」

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的、継続的に関わり
- ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を習得する



「学校体験活動」
→ 実地体験

新見公立大学
オリビュル
主眼点
副眼点

「保育士が保育現場に慣れること(この実習は?)」
というのを「保育士の仕事」

- ① 子どもの声
- ② 先生との連携
- ③ 環境構成

設立
・ 万歳は(保育士(病児))
・ 10日間の見守り活動(1-2年)
園児の成長
・ 実習生という
・ 先生という
・ 子どもの状況に
対し、保育士が
入るべき、否か

<グループワーク>

(病児) 決めつけ、参加のやり方

- ① 医師と保育士が関わっている中、保育士としての声と連携の大切さ
- ② 子どもの「いい」と「わるい」

・ 病院の先生と「保育士の先生との関わりに入る(大変さ大切なこと)」
・ 回りのことが見えるようになる(月齢進んでいいや、月齢でいい)

(保育)

単発の遊びの内容、地域での集まり → 安心、おたのしみ、草取り
「おたのしみ」は、長期的に言うこと、子どもの成長に
実習では違う、幅広い(保育(いろいろなクラスに入る利点))

(課題) 集団として見ること、先生と協力、大切

日々の保育に活用 (体調が悪い時、朝から眠い時)

安心して預けられること

保護者が
信頼している
保育士
という
(親目)

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

実地体験実習は、決して白く、補助的に。

○病児保育

- ・ 病気があるからこの子は、～できないと決めつけるのではなく、他の子どもの同じように年齢相応の学習ができるようになる。
- ・ そのため、保育者は、様々な方法を試したり、工夫した上でその子に合った参加の仕方を考えることが大切である。

○ 新見中央病院、シミュレーション

- ・ 実際に保言護者から直接「病院の先生と保育所の先生が繋がって（来ていたら且力かる）」という言葉を知り、安心して子育てのできる環境をつくるためには、医療と保育の連携が必要であると学んだ。
- ・ 子どもの“いつも”を知っておくことで、子どもの小さな変化にも気づくことができ、生命の保持に繋がる。

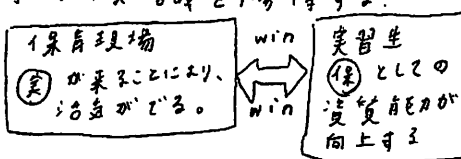
○ 新見保育所（2歳児クラス）

- ・ 子どもたちが自分の言葉で伝えられるように、日々の様々な場面で保育者が簡単な言葉を知らせていた。6月末には、「お誕生日」と言えなかつた子が、10月始めには、「お誕生日」と言葉で伝えられている事に感動した。子どもの育ち・成長は、日々の積み重ねであり、それがいつか子どもの姿に現れることを実感した。

教員より 新見公立大学版「実地体験実習」

- ① 学教育、保育、介護の正現場に、決して白く、補助的に参加する。
- ② 医療、病児保育の現場に参加し、医療的な知識を学習する。

先生と正直白くに話さる。自己開示。
 ・ すばい！と思ふたことを素直に言葉で伝える。
 ・ 自分らしさを出来るようになったら、楽しくなる。
 ・ 少し医療の世界にふれ込んで学んだことを保育の場でも生かせるように。
 身体検査の日々の前に、ドキドキな子どもの心の準備を生かしていきたい。



<グループワーク>

- ・ 教材づくりの参考本
- ・ 担任や補助の先生の仕事
- ・ 保言護者からのクレーム対応
- ・ 様々な笑顔の子に出会えた → (玉里) (井原) の中居た。
- ・ 自然発生の身振り振り
- ・ 一人ひとりでなく集団も。→ 補助の先生と力。
- ・ 病児保育。(予防注射)の知識深める。
- ・ 実地で少し気持ちよく楽になって、話さる着いこ周り見れるようになった。

10日間の実習では見れなかつた、1、2年後の成長にもたずかわることができた。

さ平個これないから、子どもと保育者の関わりを客観的に見れたし、単純なこみよこ
 実習より
 エンタだけなく、保育者同士の情報共有・連携
 心気持ちをもつて実習でき

継続的・補助的

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

1. 病院 - 病児保育について学んだ。保育所と比べると連携をとりやすい(昔は
ない)ので、病院の先生や近くの保健士と、保育所・保護者)に
ある。病児があるから保育所に通う子どもは、居場所があり、病児保
育のことや子どもの病気について自分も学びたい、子どもにできることは、

中央病院 - 実際は子どもの予防接種の見学をさせていただけ、保護者の方、子ども先生
の会話に耳を聞くことができた。病院 = 2つとイメージがあるが先生が子
どもだけではない、保護者の方にも優しい話をして、安心があることができた。か
と思いついて、川先生の手帳を見たら「味津女児保育」に載っているように確認した。

2. シェアリング - 初めに、身体図形を使った子どもの病気や息は体調変化や何かあつたかの
知識が必要だと感じた。子どもの病気にたいして理解を深めた。

3. 新郷保育所 - 実習は1日おのび少し楽に子どもと関わることで、子どもと先生との関わりを
見ることができ、うまくいかなかった時に挑戦してやり直すことができた。
新しい場所に行った時に簡単に簡単に伝える自己紹介(お名前と年齢と
何かあつたこと)困らぬののやりとりに、草むしりや子ども製作の制作など
先生方の苦勞が見えた時間ばかりの作業もスムーズにできるよ
う努力したい。

教員より

継続的・補助的に関わる

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的・継続的に関わる
- ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的知識を修得する (コラボシカ)

子どもの心の準備

— 急に受けるべき。

自分から = 仕事に来る前に
隣の先生とお話をする。

- ① 子どもの育ち ② 連携 ③ 環境構成

かからぬこと → 他の先生がどうしているのかを
伝える

<グループワーク>

- ・ 病児・保育所の連携 ^下 どの状態でも、先生の手を借りて成長できるように。
- ・ おもちゃ作り・補助的先生の手配・クレームの対応
- ・ いろんな子ども - 実態が違う、理解を深める、先生方の会話(環境作り)
- ・ 集団としての意識
- ・ 1年後、2年後の成長が見えた。
- ・ 保護者の声に反応、チームワーク
- ・ 他職種連携、10の指針

病児保育
病児保育
という決めつけ

子ども
他の子どもの同じように経験をさせるように

・ 草むしり草花に興味をもつ、
・ 関わり、見守りのメリハリ

いろいろな園で実習をさせていただくことで、様々な経験ができ、沢山の先生方の話を聞くことができて、良かったと思います。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

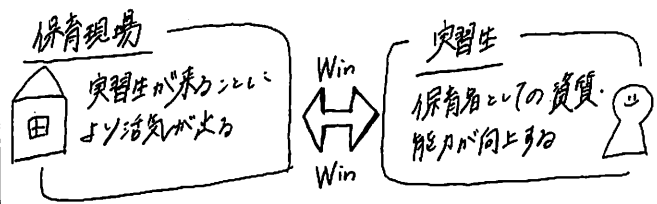
経験したこと、学んだこと、今後の課題等

○神代認定こども園
 壁面作り(クリスマス会で使用するもの、お誕生日を喜ぶ(飾りかたのものなど)や、クリスマス会での出し物の用意を任せていただいて、実習生が主体的に動くことが出来る機会を沢山与えてくれた。
 クリスマス会では、実習生の出し物として手遊びをしたり、先生方の出し物の手伝いをさせてもらって、保護者の方の前で発表する経験もできた。緊張したけれど、子どもたちが喜んでくれたり、保護者の方から褒めをいただくことが出来た。良い経験だったと思います。

○大佐認定こども園
 初めて手帳ソバズルを任せて、実習生同士で考えながら協力して取り組んで。一日だけの実習であつたけれど、子どもたちとの関わりは少なかったけれど、教育実習後約3か月ぶりだった子どもたちと成長している姿や、実習中に一緒に楽しかったことを思い出して話してあげることが出来て嬉しかった。

○新郷保育所
 実習では行っていたので初めて関わる子どもたちと楽しく関わるための工夫を沢山できた。初めは身構えが強く見えた子どもが、一緒に遊べるようになっていく様子を見て、心がほぐれていく様子を見て、関係がよくなっていく様子を見て、嬉しかった。

教員より



- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的・継続的に関わる。
- ② 医療・福祉保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する。

先生の経験が

シカゴ リリシタル!!

★自分らしさを生かすには、たくさん楽しむ。いろいろな経験。
 ・他の先生とよく話をあか(壁をつくらばい) → 自分だけが人間という自己開示がある。
 ・他の先生のあつちのくを先生に伝える。見たいと伝える。(自分から話したいと聞くのも大切、あつち!! も伝える)

<グループワーク>

効率的に行動する
 役割を素早く正確に
 子どものために動く等

全体で協力!
 同じを見て動く

○大沼中央
 何かあっても冷静に
 柔軟に対応
 気持ちに寄り添う

○新井中央
 目を見て伝える
 保育士も予防接種について知る
 命を預かる責任の重さ

- ・実習よりも近い距離で先生と話せたり、少し気楽に様子を見ることができたりした。
- ・看護の知識を大分知ることができた。
- ・子ども一人一人を落ち着いて見れた。
- ・医療・福祉が子どもにどう影響するのかがわかった。
- ・実習後に帰った園で子どもの成長が見えた。
- ・"自分でする!!"を大切にする。

・先生の経験が活かされた。
 → 協力して助け合いが大切!!

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等
実施体験実習では、環境整備や保育の補助など、保育実習や
教育実習とは違った、子どもと関わり以外の園での仕事や作業を
経験した。保育実習では、子ども達の活発さをよく観察し、日誌
や指導案につなげることでできるようになることを見つけたのは^精一杯
だった。実施体験では指導案を書かなくて良いし、日誌も
実習の時ほど詳しく書くのではなく、簡単に一日の記録を
書いただけだったので、それ以上にしぼる必要なく、様々な方面
から子どもの様子を見ることができた。園での実習の
他に、病児保育について、実際に病児を診察している様子を見
ることができたり、病児の受け入れを行っている園を見学させて
いただいた機会も~~あった~~。また、これらの経験から現場において
保婦者に求められること（選抜コミュニケーション等）、子ども達や
保護者のニーズについて深く知ることができた。

教員より

新見公立大学版「実施体験実習」

- ① 教育、保育、福祉の現場に補助的、継続的に関与
- ② 医療、病児保育の現場に関わり、医療的知識を修得する。

<グループワーク>

子どもの遊びの質を上げるためには、園に富みだすために子ども達に
はその環境を整えることが大切である。

病児保育を学んだことは現場においてとても大きな
強みとなる。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

<p>経験したこと、学んだこと、今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病児保育 病院内 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体調や様子の理解 →保護者に、子どもの音階の様子や変化を細かく聞いていた ・簡易的な子どもの体調調査 →聴診器の扱い方や、脈拍の数え方の把握 ・病児保育の意義 →子どもたちの健やかな成長・発達を促すため、保護者に代わり保育者が様子を見守る。 ・保護者連携 →子どもの様子に加え、保護者の心遣いや不安を聞きながら、協力し子どもの成長を支援できる体制を整えた ・病院での子どもとの関わり方 →子どもの興味関心に訴え、本人たちの不安や恐怖を軽減 →声を変え、優しく子どもに接する ○課題 <ul style="list-style-type: none"> ・見聞だけで終わるのではなく、それを実践に活かせるようにする ・講義で学んだ子どもの成長・発達段階を意識して、子どもに関わるようにする
<p>教員より 新見公立大学「実地体験実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育・保育・福祉の現場に実用的・建設的に関与 ②医療・病児保育に関わり、医療的な知識を修得 <p>* なお、小学校以上の教員免許を取得する大学では「大学体験活動」という単位を設けている学校が多い。</p> <div style="text-align: center;"> </div>
<p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育者に求められている連携コミュニケーションの意識 ○保護者のニーズの意識 ○環境構成にかまを入れた ○信頼関係の構築 ○家庭ごとの負担の軽減を目指した保育

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

健康の森学園の施設・特別支援学校共にたくさん行かせていただいた。施設では夏期の実習で行かせていただいた時のことも思い出しながら、支援学校の方は実地の後に行った地元の特別支援実習と比較しながら実習を行った。

施設の方は、夏期と冬期でまた作業内容や向き合い方の違いもあったりして、違う姿の利用者さんの様子を見ることになりました。また、施設実習の際には休日しか関わることはできなかった。班の方の作業にも参加し、仕事としている時と一緒にいるメンバーによって全然違う姿を見せてくださった利用者さんも居て、色々な角度から人を見ることの大切さを考えた。

支援学校の方は、時たま先生方の生徒への捉え方に心配を抱くこともあったが、(恐らく支援学校初心者の先生)、長く積み上げられてきたシステムの中で、小学部から高等部まで同じ学び舎の中で一貫した教育が行われているように感じた。小学部の枠を超えて他学年や施設の方と一緒に何かできるのは健康の森学園ならではの強みだと思う。立地が特殊なだけに活動を知っているのは関係者のみだと思いが、もっと色々な人に知ってほしいと思った。

教員より

○実地体験実習は他の保育養成校にはない。
 ※小学校以上の教員免許を取得する大学では、
 「学校体験活動」という単位を設けているところが多い。

① 教育・保育・福祉の現場に補助的、継続的に関わる。
 ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する。

元(リ)シテル 兼見

＜保育現場＞ win ＜実習生＞
 実習生が来ると 活気が出る win 保育士としての資力が向上する。

自分から壁を作らない大切さ。もういらないと思わなければいい。保育現場だから、新卒や目には不確定に子どもから病気をもらう。しっかりと食事をとらなければならない。自己開示したくない人を知ることができると、最終的に自分の良さや強みを見つけてあげられる。

<グループワーク> の実態と各人と見比べ

- ・ 観察し、子ども一人一人に合わせた支援方法を考えるのがどの職種でも大事。
- ・ 専門的知識をもつことの重要性。
- ・ 先生方の意図・意識・専門性が子どもに大きく影響する。養育職員の意識が有るが、
- ・ 多職種連携・保護者連携大事

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

病児保育 → 病気に対する知識を身につける。

○子どもにどうしてあげたいかという気持ちや考えをもつことで、よりよい保育に繋がる。

病院

○子どもが受診する際に親がよりそうことの安心感。笑顔の大切さ。

施設

○発語がなくても表情で考えていることが汲みとれたり、指示していることを理解している。

○施設の人たちで支え合い、楽しみながら働いている。

○障害を持っていても、練習を積み重ねれば色々な仕事ができる。

支援学校

○子どもの実態(障害の重さや発達段階)を一人一人把握し、授業を展開していくことの大切さ。→ 自分で子どもの実態を捉えらるるようになる。

○障害児にとっては自分のことを発表することに大きな意義がある。(自分の意見を言えない子が多い)

○継続性を身につけることの大切さ。→ 教員が課題と子どもの好きなものを調整する。

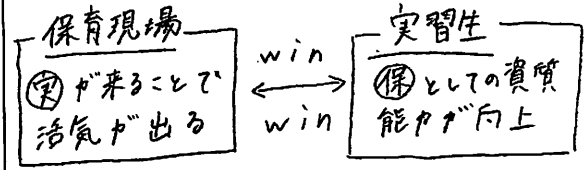
保育所 ○年少だ、た子どもが年長になっており、数年で子どもが大きく成長していることを感じた。

教員より

新見公立大学版「実地体験実習」

① 教育・保育・福祉の現場に補助的、継続的に関わる。

② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する。← オリジナル



※ 小学校以上の教員免許を取得する大学では「学校体験活動」という単位を設けているところが多い。→ 「実地体験実習」のモデル
 ○ 自分らしいが出てくると仕事が楽しくなる。周囲の人と話しをする。
 ○ 他の先生のすごい所を口にする(伝える)

<グループワーク>

○ 観察して子ども一人一人の実態を把握した上で、その子どもに合った支援方法を考えることがどの職種でも共通して大切。

○ 専門的な知識をもつことの重要性。

○ 先生の意欲・意識・専門性が子どもに大きく影響する。

○ 職員の意識共有が大切。

○ 多職種連携・保護者連携が大切。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

キタ 経験ができた点については悔しいという思いが強いと思っ
た。しかし、病院やたんぽぽ保育園での講話では新しい視点を習得
するうえで非常に貴重な機会であったと感じています。

病院では、目の前にいる人に対して丁寧に対応し、観察していく中
どのような関わりをしていくべきかがいかに大切であることを学ぶ
ことができました。また、たんぽぽ保育園ではどのような特異的
な事情を抱える子ども達の存在から、生かすや充実した生活の保
障のための具体的な取り組みや他職種連携・保護者連携の
大切さを学ぶことができました。

これらの学びを形を変えながらも活用できる方法の考察やこれら
について学びを深めていくことで保育者として成長し、新たな課題
をも見出し出せるを考えています。

教員より

実地体験実習は新見公立大学の独立科目

<目的>

① 現場に継続的に関わること(福祉も実施)

② 病児保育等から医療的な知識の

習得(独自性のある所) → 保育の中で
子どもへの準備を

※ 小学校以上の養護校では「学校体験活動」
を設けることが多い

ETIL → 現場と実習生のメリットの
相互性 ⊕

① → 現場の活気が出る

② → 資質・能力の向上

(保育を客観的に捉えること)

グループワーク 伸び伸びとできる

↳ 問答的に体験を習得できる (互に指示)
メリットがある → 互の立場から

★隣の先生と良く話せること! (話のやり取り)

文保育
から
伝承

<グループワーク>

・良く観察し、子ども一人一人の実態をちゃんと見られる、それに合わせた支援方法を考
えることが大事である

・専門的な知識を持つことの重要性

・支援者の意欲・意識・専門性が子ども達に大きく影響する → 意識共有の大切さ

・多職種・保護者連携の大切さ

④ 子どもの育ち、環境の大切さ

や
思
伝

第2回 教職・保育実践演習

- 保育観を広げられた。
- 1人の先生として見てもらった。
- 1人1人の先生が効率的に働いている。
- 語りをもって働いていた。
- 柔軟な対応力。
- 寄り添う。

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生
 ○ワウチンにっ
 ○保護者も安心して子育てしたい。知ってあ

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

実地体験実習では、病児保育施設の見学や学内シミュレーション実習、病院の見学などを行いました。子どもが保育園で熱を出した時の対応や、毎朝の保護者との情報共有の大切さ、病児保育施設の役割などについて学んでいく中で、子どもの命を預かる責任の重さを改めて実感しました。子どもの急な体調不良は、保護者にとって大きな不安や心配をもたらすと思うので、保育者の正しい知識と冷静な対応が必要になると思います。保護者の気持ちに寄り添いながら、安心して子どもを預けられるような保育者になるために、今後も勉強や実践の中で対応力を身につけていきたいと思いました。

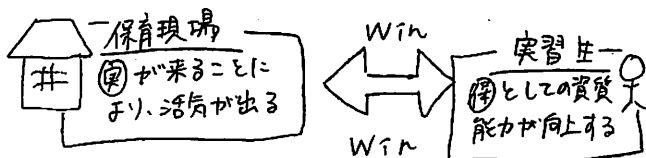
また、SNSやニュースを見てみると、「子どもが急に熱を出し、迎えに来て欲しいと保育士に言われたが、仕事を抜けることができずに困った」という出来事がありました。このニュースを見て、病児保育施設の認知度の低さを実感しました。看護師や保育士、その他様々な専門機関が連携して、保護者の負担感や不安感を軽減できるような施設をもっと増やすことができれば良いなと思いました。

小田先生が言う「一口本違う保育士」になるために学んだ知識を活かし、子どもの安全を守れるよう、責任を帯びて仕事に取り組むたいと思います。

教員より

- ① 教育、保育、福祉の現場に補助的、継続的に関わる。
- ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する。

新見オリジナル



- ・他の先生とよく話をする。(自分らしさを出せるように)
- ・「すごいな」と思ったことを伝える。(先輩保育士に)

<グループワーク>

- ・「～できない」と決めつけない。
- ・子どもの年齢、状況、性格によって対応方法は異なる。
- ・負傷に子どもに関わることで、挑戦してみよう!となった。
- ・客観的に見れた。
- ・ただ草抜きをするのではなく、草花に興味をもつ。
- ・看護の知識もふまえた保育。
- ・メリハリのある関わり。(見守りと援助)
- ・1年後、2年後の成長も見れた。
- ・裏の仕事の多さを知った。
- ・正しい知識を正しく使う。
- ・情報共有大切。
- ・意欲、知識、専門性が子どもに影響を与える。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

互に認識度などモ園では、外遊びへの参加、朝の会への参加、玩具の制作、環境整備を行なった。様々な遊びの中で印象に残ったのは、祭りの個人差を踏まえながら、集団としての遊びを援助すること大切であった。外遊びの際に慣習の時に担当していた5歳児(当時13歳児)と関わり機会があった。2年の祭連、成長して大きくなり、鬼ごっこや鬼火のそよぎ時、決まりを理解し、それを守る中で、ゆずり合った相手との気持ちや考えを見ることができた。しかし、その中で、祭連に個人差はあり、決まりを守ることができない幼児もいた。その際、他児が折ったという形でその場は終わったが、保育者として、その子どもに決まりを守ることが教える必要があったと思う。その子の周囲がゆずり合った気持ちに良いことだとして、常にその子の主張が優先されている。その子の規範意識が育たない。一人一人の子どもがどのようになってもいいか、集団のなかで育つ合うためにはどのような援助が必要か考えていきたい。

健康の森保育園障害者支援施設には、継続的に足を運び、様々な場面で障害のある方と関わりることができた。印象に残っていることは、自立に向けての支援と、一人一人の能力に応じた支援であり、自立に向けての支援においては、一人一人が自分でできることを自らしており、それを職員も把握すること、個々のペースでステップアップしていきようにすること。仕事への意欲が高まると言葉かけを丁寧に行っていることなどがあった。一人一人の能力に応じた支援では、一人一人の障害特性や性格に合わせた仕事を割り振ったり、それらの言葉かけを行っていた。障害のある方と関わりながら、障害のある子どもの将来を長期的に考えることができた。子どもが育つ中で、いろいろな経験を積み重ねていってほしい。

自分から分かった時、互に認識度などを見て良かった、お互いに言葉にしたいこと

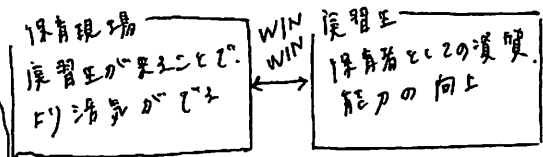
他の先生とFC話をする中で自分から話を自分のために自己開示をしよう

教員より

新見公立大年版「実地体験実習」

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的、継続的に関わり。
- ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を習得する。

※ 小卒後以上の教員免許を取得する場合は、「障児体験活動」という単位を設けることが多い。



子どもの保育の中で、子どもの心の準備に役立ててほしい！
 歯科検診、耳鼻科検診、内科検診の前など

<グループワーク>

- 実習とは違う年齢での学び
- 子ども一人一人の動きや関わり方に注目して活動できた。
- 場面転換を体験できた。日頃の保育業務と同時に行うには、初歩的にできるように技術を磨く。
- 保育者と、医療的な知識を学ぶ。
- 環境整備だけでなく、保育者の大切な役割。
- 病児保育の必要性を学んだ。

季節の行事や、食育の知識を見につけてい

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

<p>経験したこと、学んだこと、今後の課題等</p> <p>保育現場での保育士の役割を再認識することができた。 登園・降園時の保護者との関わりの中で、<u>会社全体</u>が、 一家庭ごとの負担を軽減できるように、<u>信頼関係の構築</u>が必要不可欠であることを感じた。</p> <p>子どもたちと遊ぶ場所を「見つけたり」して「47」の力を 入れたいから、子どもたちの「遊び」の質や種類 が「7」になる。関わり方などによって大きく影響がある と思う。(子ども同士の) 遊びの場を「環境」に「10」の力をいれるのが「重要」 であると学んだ。</p>
<p>教員より</p> <p>① 教育・保育・福祉の現場に補助的・継続的に関わる。 ② 医療・病児保育の現場に関わり医療的知識を修得する。 ③ 信頼関係の中で子どもたちの病気に関わる不安や恐怖を 和らげよう。</p>
<p><グループワーク></p> <p>子どもの普段の様子を細かく聞く。 声色を変え、優しく子どもに接する。</p> <p>連携（保護者とのコミュニケーションによる）</p>

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

毎日しか実地体験実習に行くことはできませんでしたが、新見市内の認定こども園へ行ったリ 学内シミュレーション演習や病児保育について実際に学ぶことでも良い経験ができました。保育実習などの実習では指導しないといけなかったり保育士の先生方に行き方を評価されているのを意識してしまったり逆に重くはなかったりしましたが、実地体験実習では環境整備や壁面作成等をする中で他の実習では分からなかった面から園を見ることができ、子どもと関わることで保育士の仕事ではなく大切な仕事や役割がたくさんあることを学ぶことができました。また、病児保育や学内シミュレーションなどで、知識の大切や医療的な視点からのお話によって、保育者も医療的知識も身につけていなければならないことや病児保育施設の必要性について考えなければいけないことを学び、保育者にとって今後の言葉題であると思いました。個人としては、様々な視点を持つように

教員より 学ぶことが言葉題であると思います。

新見公立大学 版「実地体験実習」 ← 1世の保育環境構築には2人、^{①の学校(本馬)活動} 実地のモデル

① 教育・保育・福祉の現場に補助的、継続的に関わる

② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を習得する ← ココがネジツル

・自分らしさ ・すごいと思ったことを伝える

・隣の先生とよく話をする (いかに)

<グループワーク>

- ・新しい発見ができた
- ・子ども同士の関わり
- ・季節の行事や食べ物の知識を身につけた
- ・ハキめん、製作物の体験
- ・手洗いや食卓のよさ
- ・病児：家庭と医療サービスを結び → 保育士が適切な知識を学ぶ
- ・発達の違いを学ぶながら集団としてのあそびを援助する
- ・障害が軽減しつづけるように適切な支援、しりつに向けての支援

障害が特性

できることの自覚
個々のペース

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

継続的、補助的、実地のキーワード

●保育視点を広げることで、一人の先生としてだけでなく、保育士としていたい気持ちUP

① 病院保育 (たんぽぽ保育園) 毎朝の情報共有をしっかりと行う

- 保育園が預かること難しい子どもを預かり、仕事を休めたい保護者を受け入れる。育児に不安を抱える方に寄り添う心の入り所でもある。
- 沢山ある「何かの種類」とそれを「適切な処置」を頭に入れ、何かあると「冷静に受け止めてみるスキル」が保育士に必要であること。想いを行動に移し、実行できるようにしたい。柔軟な対応力◎
- すぐに保護者に連絡し、降園させること正しいとは言えない。その後の支援があるのか、園でできることをしていく必要がある。認知度が低い、安心できる場所があるといいよね。

② 病院見学 (新見中央病院)

- 保育士として、生後2ヶ月からどのタイミングで予防接種をできるのか、どのワクチンがどの病気の抗体用に作られているのかを把握しておく。保護者に尋ねられた時に正確な情報を伝える。安心感
- 子どもも保護者も安心できる言葉かけをすることが大切。「大丈夫ですよ」は目を見て伝える。
- いつでもコミュニケーションをとりながら、迅速に容態を見極める姿、知識と技術、スキルをフル活用。

③ 実地体験

- 目に見える汚物の掃除だけでなく、玩具の消毒をすることで目に見えない菌も徹底的に。
- 保育者は科学的に働き作業することが必要。無駄がないのはもちろん、試行錯誤を繰り返すことも時には大事。
- 食事補助... 配膳の基本的な位置、机の端に置かせるようにする。← 手が当たって落ちてしまうように。フォークの持ち方、水分をとっているか、赤田かという事で目逃さないように注意する。△ホムとヒシエタ×
- 1人で多人数を見る難しさ。特に「園庭での外遊び」の時はよく周りを見回すことを意識するようになる。
- 子どもにとって良い影響を与えられる存在。
- 一人一人が科学的に働くことが大切だと思った。固定観念がまだある。1人1人の負担を減らさず。

教員より

実地体験実習

小学校以上の教員免許を取得する大学では「学校体験活動」という単位を設けていることが多い。

① 教育、保育、福祉の現場に補助的、継続的に参加する。

② 医療、病院保育の現場に参加し、医療的な知識を修得する。

→ 自分らしさを出すことはとても難しい (たくさん話かける壁を消す) ほかから参加、良好関係を築くツツ女、子どもの病気を必ずもらう。「本当に申し訳ありません」

保育現場

● 預かることは「エリシエタ」

楽観主義

win-win 実習生

● 保としての資質 能力向上

<グループワーク>

- 病院保育はより連携が大事 (医療機関、保育園)、先生同士のコミュニケーションも学びの場ではない。
- 記録をしっかりと行うこと。知識をひろげて、毎日の情報共有をしっかりとしたい。
- 女子は比較的できる環境工夫、ツツかの伊介。
- 1年生のときの子どもの成長が見れること。良い点
- 実習とは違う年齢での保育ができた。
- 意欲、保護者連携、多職種連携
- 見守る → 自分でできたという経験が大切。
- 色んな体験をしたことで、メリハリのある参加が大事。
- バと身体が大切になる様子が見ることができた。

ひと味ふたにこ味もちかう保育士 にならんだ!

小田 先生

第2回 教職・保育実践演習

ゲストティーチャー：入江先生

○実地体験実習の振り返り

保育は興 蘇林準備

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

< 下見(まほ)保育園 病児保育 >

- ・ 病児保育について、業務内容等を知ることができた。
- ・ 保育者として子どもの病気や対応などについて知らなければいけないと感じた。
- ① 保護者に対しては病児保育施設の情報提供できるようにしなければと思った。

< 新見中央病院 >

- ・ 診察の様子を見学させていただいて、知識があるという点で、何よりも安心、信頼できると思った。
- ・ 小田先生や看護師さんの常に落ち着いた対応が子どもを安心させていた。
- ・ 保育士も病気について知ることが、保護者を不安にさせたり、急に呼ばれたりせず、適切な対応ができると思った。→ ^① 子どもの病気や症状について正しい知識を身につけることが「必要だ」と思った。
- ② 子どもと生活を共にしているが、小さな変化に気がつかないといけない、気づける目を身につけていく。

< 新見中央認定こども園 >

- ・ 環境整備の重要性 → 子どもが触れる物に対しては丁寧に行く。
- ① 全体の保育を行っているから、一人一人を見て活動の展開していくこと。
- ② 子どもと目線に立ち考えること、一緒に楽しむこと、子どもが主体となり活動ができるように環境づくり、言葉かけをする。
- ・ 職員間の連携の大切さ、担任のクラスだけでなく園全体で。

子どもに伝える言葉 指導する

教員より

- ・ 外部の先生と子どものかけ橋になる ← 医療について知ることが多い。
- ・ 教育、保育、福祉の現場に、補助的・継続的に関わる。
- ・ 医療、病児保育の現場に際切り、医療的な知識を修得する。
- ・ 自分から話せばいい → 他の先生と話をする。
- ・ 子どもとの関わり etc を言葉で伝える。(私にはできないけど、できる)

< グループワーク >

- ・ 子どもの成長が見られる。(長期的な関わりの中で)
- ・ 見守ることを大切にして子どもが自分でできたという経験。
- ・ 様々な選択肢をもつ、メリハリのある関わり。
- ・ 教材準備
- ・ 相談や連携
- ・ 緊急時の対応。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

○健康の森学園支援学校小学部

- ・ 経験したこと：
 - ・ 授業や休み時間を通して実際に子どもと関わる、支援する。
 - ・ 生活支援・課題別学習の指導。
 - ・ 教材準備

- ・ 学んだこと：
 - ・ 言葉掛けなど、子ども一人一人の特性に応じた支援がされていた。
 - ・ 教材研究や授業反省を通して子どもに新しいことを挑戦させ、継続していくことで子どもの自信に繋がっていた。(実態把握)
 - ・ 構造化された環境を作ることで、子どもの自立に繋がった。

- ・ 課題：
 - ・ 子どもに伝わる言葉が指導であること。
 - ・ 子どもの欲求に応えるべき場面とそうでない時の境界線をもつこと。
 - ・ 特別な支援を必要とする子どもへの支援方法について知ること。

・ 声や表情を効果的に(+)にすることで子どもが興味をもたれ、考えたりする。

教員より

- ・ 医療の知識も保育者がもつ → 子どもの検診等での心の準備になる。
- ・ 現場に補助的に関わる(継続的に)
- ・ 「自分らしさ」をどう出せるか → せざる仕事は楽しい。よく話さる。
- ・ 初心者 → 命がらふことを聞くだけでなく、相手と癒ゆる → ○にあり「あり」

<グループワーク>

- ・ ネットの情報を探し出す。病に関わる情報を保護者に提供する専門性
- ・ 年間を通じた子どもの成長が見られた。他職種連携。
- ・ 安全に留意しながら子どもとつながることに繋がる。
- ・ 季節に応じた環境構成。

保育補助
環境整備

黙食 →
箸やコップ等
見守り指導あり
落着いた対応
子どもを安心
職員間の連携
→ 担任のクラスだけ
なく園全体で
受け止める。

小さな変化に
気づけるように
全体を見守る中で、
一人一人を見守る
方向性
子どもの目標に
子どもが主体となる
活動環境作り。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

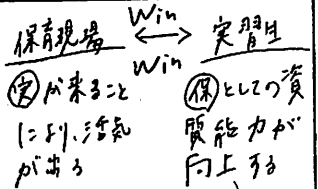
経験したこと、学んだこと、今後の課題等

- ① 1,2歳児クラスでは、「お茶くたし」など、園児が要求や自分の思いを言葉にして伝える経験と大切に保育をされていた。
- ② 1年前と比べ、4歳児の時には自己中心的な言動が多かった園児が5歳児になり、年下の友達と気遣う姿が見られた。3歳児の時にはすぐに泣き出して泣き止めていた園児が涙を堪えて感情をコントロールしようとする姿が見られた。1つの発達を感じた。4歳児に11歳
- ③ 年度により、「思いやりを育てる」「自己肯定感を高める」など目標を1つ掲げて保育をされているということを知った。
- ④ セリフのふたを少しだけ開けるなど、援助の程度を調節し、「自分でできた」という感覚を大切にしておられた。
- ⑤ 保育者が園児の思いを代弁すべきかどうかは、年齢やその時の状況、性格によって考え方が変わる。
- ⑥ 自由遊びの時間に園児が紙飛行機を作っているのを見て、保育教諭が「紙飛行機飛ばした人は遊戯室に行くよ」と言葉がけをされていた。保育者が園児の姿を見て素早く判断して言葉がけをすることで、園児が安全に思い切り遊べる環境を用意することが大切だと感じた。
- ⑦ 保育者の言葉がけにより、同じ行動でも園児によって捉え方が変わり、成長に繋がる。
- ⑧ 園児の様子がいっしょと違う時、「体調が悪いのかしらね」という選択肢をもつこと。
- ⑨ 園児の周囲の環境に注意深く目を向け、危機管理をすること。
- ⑩ 遊びの世界を広げられるように工夫をすること。

教員より

新入生に立大学版「実地体験実習」

- ① 教育・保育福祉の現場に、補助的・継続的に関わる
 - ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する
- 隣にいる人に積極的に話しかける
 →自分らしさを出す
 →分かることをきくだけでなく、
 他の職員の良さを口に出して伝わる
- (※なお、小学校以上の教員免許を取得する人は、「学校体験活動」という単位を設けているところが99.1%
 →「実地体験実習」のモデル



<グループワーク>

- ① 子どものいろいろな経験、人のかかわりの中を育てていく
- ② 保育園全体で子どもを育てる意識が大切
- ③ 一人ひとりに合わせたかかわり、その子どもの発達や性格を把握した上でできる
- ④ 安全に留意しつつも、見守ることを大切に、「できたら」という経験を大切にする
- ⑤ ただ草引をさせるだけでなく、草花に興味・関心をもつ
環境整備の中で
- ⑥ かかわるべき時と見守るべき時の判断が難しい...
- ⑦ メリハリのあるかかわり

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

＜保育施設＞

経験したこと

- ・ 子どもと一緒に遊ぶ
- ・ 制作物の準備
- ・ 掃除などの環境整備

学んだこと

- ・ 子どもはいろいろな経験、人の関わりの中で育っていく
- ・ 子ども一人一人の奇りな個性や関わり方は、その子どもの発達や性格を把握し、関わっていくことが大切。
- ・ 全体で保育することが大切。

課題

- ・ 子どもの発達や性格、その時の精神状態を把握すること。
- ・ 保育者同士でのよりよい人間関係作りをしておくこと。

- ・ 保育者同士でたくさん会話をする。→ 「うしさ」に繋がる。
- ・ 「あじい〜」と思っことは相手に口にして伝える。→ 教員とあじい〜に繋がる。
- ・ 自分から自己開示をする。→ 受け入れられやすくなる。

教員より
新見公立大学版「実地体験実習」

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的・継続的に関わる。
- ② 医療、病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する。

※ なお、小学校以上の教員免許を取得する大学では、「学校体験活動」という単位を設けているところが多い。

保育現場

田

⊗が来ること、
⊙、気が出す

Win

⇄

Win

実習生

人

⊗と⊙の質、
能力が向上する

＜グループワーク＞

- ・ 見守りへの援助
- ・ 自然に興味をもつように関わり方
- ・ 手と貸す時と見守り時のバランス
- ・ 年度によって、目標設定がある。(思いつく心で育てる。自己肯定感高めること)
- ・ 保育者が子どもの気持ちや代弁すべきかは、その時の状況やその子どもの性格、発達を考慮することが大切。

・ 子どもが表情で訴えている時の、選択肢を増やす。

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

先生との関係性を
 職種連携
 医療的知識
 仕事のやり
 制作・制作
 知識をいかに
 知事よく仕事
 子どもの興味・意欲
 に向けた環境・構成
 見守りの大切さ
 ニスに寄り添う
 保護者
 朝・情報期
 送迎時

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

実地体験では、実習Ⅱでお世話になった本郷保育所へ5日間行かせて
 いただきました。2年前に3歳だったクラスの子どもたちも5歳になり、バリエーションも
 大きくなった姿を見るのができました。友達とケンカばかりしていた子も泣いていた
 子が下の学年の子どもに優しく教える姿や手本となる姿を見て感動しました。
 「鈴木夏帆先生！」と名前を覚えてくれていた子もいて、「子どもが一人前に遊
 んでくれたら、楽しかった」と語り意にやるような先生になりたいと思いました。

実地体験では、園庭の草取りや清掃といった環境整備、制作物で使うものの
 準備やマスタースの作成などの業務も経験しました。子どもと直接かわる
 仕事だけでなく子どもが安心、安全に過ごせるための環境づくりや楽しく
 活動できるように準備がいかにより大切かを学ぶことができました。

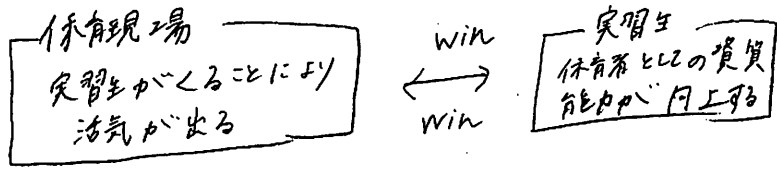
3年間、継続的に関わらせていただいたことで先生や子どもたちとのかけがえの
 深く、良い関係を築くことができたと思います。

たんぽぽ保育園では初めて病児保育の現場を見ることになり、先生からお話を伺いました。
 新見中央病院で子どもの診察を見ることができました。こまごまの来院から、子どもの命を
 守る保育者として病児や風邪、アレルギーなどの知識を身につけることが求められると感じました。
 保護者の不安に寄り添って安心して子どもを預けることが出来るように今後も学び続けたいと思います。

教員より

新見公立大学版「実地体験実習」

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的、継続的に関わる
- ② 医療・病児保育の現場に関わり医療的知識を修得する



<グループワーク>

実地体験でのそれぞれの学びを共有することで、自分の経験も改めて
 振り返ることや学びを聞くことでそれが自分の学びにもなりました。
 子どもや保護者、保育者同士の関係構築や医療的知識の
 習得など課題とする部分も多く、不安な点もありますが、自分の経験や
 学びを共有した経験を活かして来たらどう保育者として、新見公立
 大学で学んできたことを誇りに思って今年から働きたいと思っています。

自分らしい学び
 先生と話をすることで
 学びの場を作り
 先生に寄り添う
 学びに出る
 自己関係

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

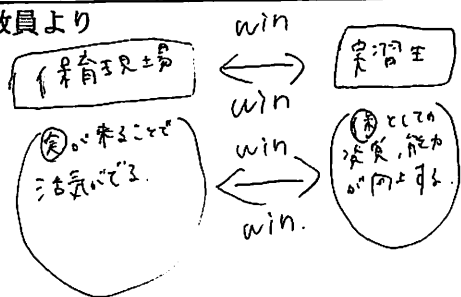
経験したこと、学んだこと、今後の課題等

私は、卒業研究もかねて、新規保育所と市認定こども園にお世話になり、実習をさせて
 いただきました。同じ新規市内でも、それぞれの園によって、環境設定や保育者の
 関わりが異なり、2つの園で実習をさせてもらって、子どもの学びを得ることができて
 嬉しかったです。遊びの環境構成の観点からは、「子どもの興味や季節に合わせたものを用意しては」とあり、
 あり、子どもの様子を見て、玩具を入れ替えたり、何か一つ素材を用意して置いておくことで、
 子どもが自由に、主体的に遊ぶことができていたことが多く見ることができて、保育者にお話
 を聞かせていただいた中で、お話を聞いて、子ども達も「ゲーム」を見つけて、それを机の上に
 置いて、子どもが「レストラン」や「コンビニ」や「お弁当作り」や「お風呂」や「お風呂」
 が大好きで、発展している。という話を聞き、何か一つの素材でこども達の遊びが広がる、子ども達の
 発想の、想像力は素晴らしいと、大変感銘を受けました。保育者の小さな環境構成の
 積み重ねが、子ども達の「やりがい」や「達成感」の気持ちを引き出すことにつながっている
 環境構成の大切さを改めて学ぶことができています。また、保育者が子どもと関わる時に大切に
 していることも聞かせていただきました。「常に子どもと一緒に遊ぶこと」や「時には高まって子どもが遊ぶ
 姿を見守ること、その本質の姿が見えてくる」と教えていただきました。見守ることの大切さを
 感じました。また、他に先生との学びを得ることができ、この学びを今後には活かしていきたいと思
 っています。新規保育の実習では、様々な職種や機関と連携することの大切さを一番に学びたいと思
 っています。

・長期的に子どもの成長を見ること
 ・保育者の関わり
 ・保育者としてのやりとりの大切さ
 ・多職種連携の重要性

・保護者の関わりとして預けること
 ・施設に合う保育者も大切
 ・継続的・長期的に
 ・異なる関わりや年齢の良さを伝える
 ・各行の風習や様子を伝える

教員より



自分から。隣の先生と話を

<グループワーク>

・振り返り、気づき、学び、成長

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

(継続的・補助的に関わりをすること、がキーワードである。)

効果的に行えること、活動が成り立っていた。時間が常に足りず、役割は早くから正確に終わらせる必要があった。むしろ雑務と呼ぶものが多く、子どものための環境整備には4人で入れていると考えられた。一方で非効果的だと感じたこともあった。固定観念は固められる傾向がある。準備段階を常に意識して行きたい。

保育に直接関係ない仕事が多い、職員の負担は大きいと感じた。もっと分業して、職員を増やして担当を割り、業者を入れたらいいのかもしれない。

この職種が重要であるから、もっと簡素で落ちついた勤務内容を目指したい。

教員より 実地体験実習

① 教育・保育・福祉の現場は、補助的・継続的に関わる。

② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的知識を身につける。←オリジナル!

自分だけが出せば大丈夫、押し付けがましい → 自由に話しかけよう、相手も話を聞いてあげよう、ちゃんと食いなさず!!

子どもにかかわる様々なことへの理解を深めたい、配属先

(「学校体験活動」をもっと充実、福山市立大学から受けたい、高月先生)

一味違う
保育士!

<グループワーク>

・保育観が広がる。・イベントごとに混ざり、2人3人の先生と話をした。・グループ

・実習後 スピーチは行ったこと、感想が良かった。・冷静な対応や柔軟な対応できた、安心できる言葉掛け、視野を広く、責任の重さ、保護者と子どもの不安に添う。

・病児だから、差別はない。・気楽に子どもと関わり観察できた。・医療機関との連携

・実習と違う命令を見ることができた。・職員の意欲や意識、創意工夫が保育に反映される。

・職員間のコミュニケーション

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

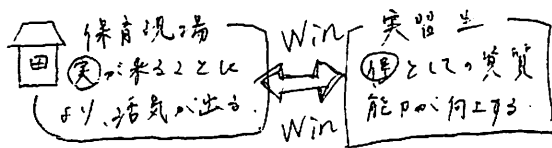
様々な経験の中で、特に印象に残っているのは、食事場面です。
 エロケ禍において黙食という点に注意と向けることも重要ですが、箸や
 箸の持ち方、基本的なマナー等にも注意と向き、指導しなければなら
 ない学びと学びました。私も保育者として日本の食を常に見せてい
 ながら指導を続けていきたいと思います。

また、読書会においても行いましたが、子どもへの配慮ができていないとい
 う即言をいただいたことに、子どもへの絵や言葉、文字等の興味を引くことが
 できるような本の位置やセリフに強調をとりながら読書会をして行
 いたいと感じました。

間接業務もすべて一応は機会はあるので、子どもが安心して落着
 いて生活できるように、入居はしっかりと改めて理解するところを学びました。
 子どもに直接関わることで、保育ではしっかりと理解し、子ども達
 が安心安全に生活を送ることのできる環境を支援したいです。

教員より

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的・継続的に関わる。
- ② 医療・病児保育の現場に関わり医療的な知識を修得する。



自分らしいと出るためには、自分先と話し合うこと。
 「正しい」を思い、にことと口に出す。

<グループワーク>

環境を整備する上では、遊びやそりにも遊びに集中していると感じた。
 製作や壁面つくりの中からは作り手、見せ方に工夫が必要
 看護の知識を身につけることで様々な子どもに対応できる。→ 幅広がり、
 身近な成長を感じることもできる。

保育観念がらんだ様々な先生に聞けること

意識共有 (教師間での)

成功体験が大切。文化の気が、様々な選択形を準備しておくこと。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

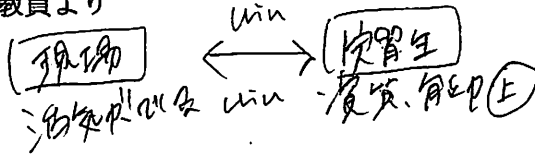
多職種連携、
医療機関
親子の育ち
119番
決のケア
子ども以外の仕事
保護者
同僚の子
遊具の安全
心環境
見守り
知見
安心
関係

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

- ・ 病院保育、小児科の診療の見学、先生の話を聞いて、範囲の知識が得られた。
- ・ 保育園で実習で担当したクラスの子どもたちから、保育者へ伝えたいこと、その思いが伝わった。
- ・ 子どもの顔色が悪い、熱い等、状況も想像がしにくく、1次隊の現場で必要な行動について学んだ。
- ・ 医療的支援だけでなく、保育に役立つ基礎的知識の重要性、知識の共有内容も範囲を超えて知ることができた。
- ・ 赤十字の風邪等、知識と実際の対応、子どもの様子を見て適切な対応を理解を深めた。→ 保護者のイタズラ、安心。
- ・ 家庭と現場の連携の重要性、関係性、寄り添う姿勢を大切にする、情報共有を目的とし、連携の重要性を改めて感じた。

関係性
見守り
安心

教員より



- ・ 各自の成長の独自見直し
- ↳ 小児科以上の有資格者を見つけたら、「学歴不備 遊具」を改めて見直し(要)

<グループワーク>

学んだ知識を現場で活かす、今回の振り返りを大切にしたい。抱えている問題は、現場で解決できるものか、現場で解決できないものは、現場で解決できないものか、現場で解決できないものは、現場で解決できないものか。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

こども園

- 靴下を履くことが出来ず泣いてしまった子どもに対して援助を行おうとすると、「この子は一人で履くことが出来るため手伝わなくていい」という指導を受けた (3歳児)
- 着替えの援助を行おうとすると「〇〇がするの!」と自分でやりたい気持ちを伝えていた (1歳児)
- 食事の援助の際、つい補助をしちゃうことが多く、保育者から「この子は自分で食べることが出来るから見守り、欲しい」という指導を受けた (1歳児) 低月齢児、おかずをスプーンにのせて口に運ぶ援助をせずに行っていたところ指導を受けた

⇒ 援助を行うことも大切であるが、見守ることも大切。特に1歳児は発達が著しく、何でもやってみようという気持ちが多い。自分でやってみることで満足感や達成感が得られ、更なる意欲に繋がると考える。以上より、運動面の発達、精神面の発達を促進するため、安全に留意しつつ、まずは見守り、自分でできたという経験を増やしていけるようにしたい。

- 環境整備について、雑草を抜くだけでなく、様々な草花を植えていた
- 作業中に子どもがやってきた時に、「一緒に植えよう」と、子どもと一緒に種まきをしていた

⇒ 雑草を抜くことも大切な環境整備の一つだが、それだけに留まらず草花を植えることで、子ども達が季節を感じたり、草花に対して関心をもったりすることが出来るようになる。また、子どもと一緒に植物を育てるという機会を設けることで、子どもにも「自分で大切に育てよう」と気持ち芽生えると思うので、素敵だと感じた。

課題

- 援助するときと見守るときとのバランス
- 子どもの様子が違う時に、様々な選択肢をもて関わる おなかのいいのかわからない食材があるかな
- 全てを許容はしない、けじめをつけることはつづける

教員より

①教育・保育・福祉の現場に補助的、継続的に関わる オリエタル

②医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する 保育現場

③「実地体験実習」 実習生が来ることにより活気が出る

1. 子どもの育ち with 実習生 保育士としての資質・能力が向上する

2. 先生同士の連携

3. 環境整備

働き始め：自分らしさ中々出せない 小学校以上の教員免許を取得する大学では「学校体罰等活動」という単位を設けているところが多い、実習前に数日間学校に行き流れを知る

心がけていたこと：隣の先生とよく話をする win-win

自分から話しかける中で相手に自分を知らせてもらう

先生の関わりですごいと思ったことを、本人の前で口にする ⇒ 良好な関係づくり 自己開示
↓
雰囲気分か
受けてくれ

<グループワーク>

- 全体で保育することが大切 (個人だけでなく集団も考える)
- 子どもの実態に応じた関わり
- 年度により保育目標を変更する
- 保育者が園児の気持ちを代弁するかはどうかは、子どもの年齢、状況、性格に応じて判断する

7/17/09-7
 自分(保育者)はコミュニケーションの
 他の側面(遊び)で受けること(パ)で

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

<p>経験したこと、学んだこと、今後の課題等</p>	<p>各講師や医師の事情 研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>病院... 注射は怖いとか「嫌いな場所」があるけれど、気持ちよく楽しみたい。様子を観察する目撃に 了コミュニケーションが大切。 予防接種の時期を保育者が把握しておくことも必要 一人一人に合った対応</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>たんぽぽ... 普段保護者がバイオキに多い。バイオキで遊ばない目撃に「仲間」が少いので 見てくれる場所があることと安心して預けることが出来ると思えます。 どの範囲まで受け入れるか難しいと感じた。</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>コミュニケーション... 発達に合わせた知識があるかという点で「保育のイェカ」がわかると思えた。 保育現場にも練習してバリエーションが豊富であることが印象的だった。</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>保育園... 毎日違うクラスの保育者と話し合いながらどの教室を使用するか相談して 1/17の活動で話し合いながら、見守りの配置と相談して1/17の連携の大切 を学んだ。 少人数で多くの子どもを扱うのは視野を広く持つことが大切。 子どもの気持ちに寄り添う。あたたかい雰囲気の中で保育する。 「いいよ」「ええよ」というのでも「ええよ」が大切。 具保自らに話す。知らない子どもから教えられる</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>言葉... 長い日になる。実態を把握し、保育に繋げる。他機関との連携</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>教員より 新貝公立大学版「実地体験実習」</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>① 教育、保育、福祉福祉の現場に、継続的・継続的に関わる。</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的知識を習得する。</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>～現場～ 自分らしく隣の先生と話をすること! どの中で思いこえを口に出す(子どもは思っている)</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>(年月) → 食べる。</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p><グループワーク></p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>病院... ひとあじわい(精進) 知識をもち、適切な対応を早く見つける。→ 保護者に一番相談し たんぽぽ... 受け入れの姿勢、新しいことへの強い思い、南に帰る。 (他の子どもと向き合 った) 連携</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>保育園... 毎年の業務を振り返る。安全確保、安心させる。自分が落ちたこと 子どもの姿を見て、言語化して「古車」を「今」に「言語化」して 視野を広く。実習に携わった園に行くと子どもの成長を感じることができた。</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>
<p>言葉... 言語化の大切さを知ることができた。 又モリス9.10 病児保育に関わる知識 上手な保育者の付き合い</p>	<p>研修... 研修 研修... 研修</p>

オリジナル

知識

連携

現場経験の重要性
 実習と連携
 一人一人に合った対応
 安全に配慮
 自分らしく
 子どもの成長を感じること
 言語化の大切さ
 現場に合った言葉
 の大切さ

継続的な学び

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

健森 就学

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

- ・ 1. 1. 1. 保育園 (病児保育)
- 病児保育の実態、病児保育の本を隅から隅まで読んで勉強しておられる。→ 新しいことを始めるには、強い思いと努力を継続することが大切!!
- ・ 新見中央病院 (診察・講義)
- ★ 各年齢の定型発達について理解する。→ 個々の成長や発達に気づく
- ★ 恐怖心や不安を取り除くために、「言葉が」^{に気づく}「表情」が大切!!
- ★ 一味ちがって保育士になる
- 子どもの体調不良時に冷静に対処、判断できる。信頼感に
- ★ 新見保育所
- 医療の知識が大切、情報提供が適切に、
- 「ありがう」の言葉が飛びかう職場の連帯感
- (3歳児)
- ★ 前年に実習で担当して園児の成長に驚いて。 (トイレや手洗い等)
- (言葉の発達、友だちと関わることが出来るようになる) 生活習慣
- (1歳児)
- ★ 年齢によって発達が全く異なる。発達段階や性格を考慮して、孝久材や

朝の会
病児入
来朝
しゃべ
り通
す
目
録
知
道
補
助
ス
モ
ー
景
境
の
大

教員より

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的・継続的に関わる
- ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する

保育現場 ⇄ 実習生

(活気が出る!) (浸漬・能力向上)

自分らしさ

初めはなかなか出づらい

隣の先生とよく話をすること

自分から壁を壊す!!!

「すいた」と思えたら口に出して言う

気がつかない病を必ずもらう

新見
独立
可
能
な
言
語

<グループワーク>

(課題)

7/7 関と連携

長い目で見る

安全管理

自覚の甘さ

知識を増やす

補助の立ち回り

- ・ 決めつけをしない
- ・ 正しい知識を正しく伝える
- ・ ワークの接続間隔、
- ・ エロパンの使い方
- ・ 病児保育の必要性
- ・ 正環境整備の重要性
- ・ 職員同士の意識、共通の
- ・ 成長、発達に
- ・ いろんな選
- ・ メソッドをもつ
- ・ 見守ることの大切さ
- ・ 先生同士のコミュニケーション
- ・ 子ども主体 環境づくり
- ・ 保育者も楽しむ

関
関
関

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

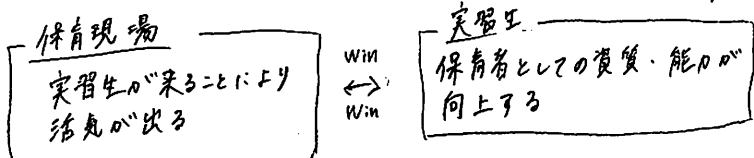
経験したこと、学んだこと、今後の課題等

- ・ 実地体験実習：継続的に、補助的に保育に関わる
- 病児保育：新見市内には大きな病院がないため、全ての子どもを預かるということは現状として難しい。→ 各病院と連携を図りながら、保護者や子どもの思いや施設の預かってあげたいという思いを大切に作る。
医療体制が充実していない地域で病児保育を行っていくにあたり、その地域の医療現場とどのように連携をとっていくか、預かることのできる子どもはどのような状態、症状の子どもにするかを考えしていく必要がある。また、保育所での病児保育に対する共通理解や保育所と病児保育施設との連携についても今後、密に行っていく必要があると感じた。
保育者は医療についての知識もっておく必要があると感じた。医療機関との連携を通して、正しい知識を正しく伝えること、正しい情報を得る力を身に付けることで、保護者や子どもに安心してもらえるようにする必要があると感じた。
- 園での実地体験：環境整備や教材制作を主にを行い、実習時には選んだ目標で保育について学ぶことができた。また、昨年度行った幼稚園実習の際、4歳児だった子どもが、今年度の実地体験実習の際、5歳児になっており、最年長としての自覚の目覚めやできたことができるようになっている等、年齢や発達段階の変化による保育者の言葉掛け、関わり方、保育環境の違いを実感することができた。

教員より

新見公立大学版「実地体験実習」

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的、継続的に関わる
 - ② 医療、病児保育の現場に関わり医療的知識を修得する
- ※ 小学校以上の教員免許を取得する大学では「学校体験活動」という単位を設けていることが多く、
← 他の保育士養成校にはない
↓ 実地体験実習のモデル



<グループワーク>

<病児保育>

- ・ 保育では医療的知識が必要
- ・ 医療機関との連携を通して正しい知識を正しく伝える
- ・ 緊急時の対応を行うことが出来るようにしておく（エロポンの使用法等）

<園、施設での実習>

- ・ 成長過程を見ることができた
- ・ 環境整備の重要性
- ・ 子どもの育ち
- ・ 職員間連携

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

実地体験実習では、保育実習や施設実習の時と違う視点で子どもや利用者の方を観察し、実際に関わることができた。保育所での実地体験実習では、保育実習をさせた園に行き、担当していた子どもたちの成長をみることで、子どもとの関わりだけでなく、環境整備を中心にやらせたいという環境整備をしながら、先生方がどのように子どもや保護者と関わっているか見て学ぶことができた。また、直接的に支援だけでなく、教材を準備したり、椅子や机、遊具などを点検したりなど、間接的に子どもが安全に安心して過ごすことができる場を作ることが大切だということも学ぶことができた。

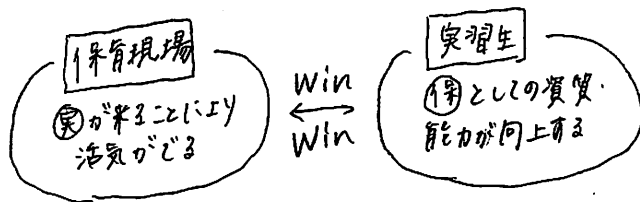
障害者支援施設での実習では、施設実習の時よりも濃い時間を過ごすことができて、落ちついた雰囲気と利用者の方と関わることで、施設実習では、障害に対しての怖さがあり、戸惑いながら一生懸命利用者と一緒に話しかけたり、寄り添ったりして、余裕がなかった。しかし、この実地体験では、障害に対しての怖さもなく、利用者の方とたくさん話をしたり、楽しく作業したりすることができた。障害の有無に関わらず、みんなが楽しく暮らすことができるように、障害について知ることや関わる機会がもっとあつたらいいのになと思った。

中央病院やたんぽぽでの実習では、保育士も医療的知識をもち、保育所で子どもの体調が変化した時も、保護者も子どもも安心して頼ることが出来る保育者になることが大切だ

教員より

新見公立大学版「実地体験実習」

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的・継続的に関わる
- ② 医療・病院保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する



※ 小学校以上の教員免許を取得する大学では「学校体験活動」という単位を設けているところが多い。
「実地体験実習のモデル」

<グループワーク>

病院保育

- ・保育だけでなく医療的知識も必要
- ・医療機関と連携して、正しい知識を正しく伝えることが大切
- ・緊急時の対応は最低限できるようにすること

園と施設

- ・成長をみることができた
- ・環境整備の大切さ

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

<p>経験したこと、学んだこと、今後の課題等</p> <p>0歳児保育</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉によるコミュニケーションがまだ未発達な0歳児だが、ダンスやマインド遊びで保育者が遊ぶ様子を見て真似をする姿が見られた。「どうぞ」と言葉をかけた後、身体に触れたり言葉リズム・触れ合いなど声を目一杯使える関わりが大切であると思った。 <p>病児保育</p> <ul style="list-style-type: none"> 病気や症状、事情が様々な子どもたちが快適に過ごせるようなルールや部屋のレイアウトなどがあった。 医療的知識は特に母子家庭や第一子の家庭の不安に対応するために必要であると思った。熱や体調不良の時に適切に対応できたら、安心だと思う。(おどろかされる子供への対応) <p>環境設定・製作</p> <ul style="list-style-type: none"> 泡あそび(洗濯→色付け→泡立て→しゃぼん玉→泡びっくなど) ひまわり、フーブルイヌ(自分で作る□□□→のりで貼る) <p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ダンス、ピョロ、手遊びのレパートリーを増やす。 言葉かけ 	
<p>教員より</p> <p>新見広世大学版「実地体験実習」</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療、保育、福祉の現場に補助的、継続的に関わる ②医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する <p>※保育者としての資質能力を向上させる</p> <p>周りの先生とよく話しをある おどろかしたことを口にある</p> <p>自分の力をあげる</p>	
<p><グループワーク></p> <p>病</p> <p>医療(機関)と連携して 正しい知識を正しく伝える 保育だけでなく他の専門知識 緊急時の対応(エビパンの使いかたなど)</p>	<p>保</p> <p>成長過程を見ることでできた 環境整備の大切さ(大変さ)</p>

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

新見中央病院 → 予防接種などの知識不足、保育だけでなく他の専門知識も必要

病児保育 → 自治体からなげやりになておしつづられることがある
始める人の強・意図 大切 保育園外でのサポートも重要

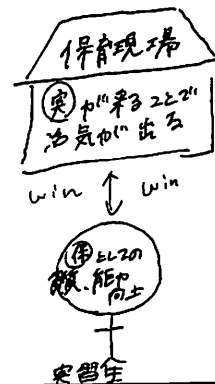
認定こども園 → 人手不足だからこそ工夫・共有 ②

- 効率 ②
- 設備の安全点検
- 指導案(行事)の共有だけでなく、日々の振り返り、明日の保育に
ついで話し合う等も 99%あり
- 同じ絵本でも、対象に合わせて読み方が全く違う。知っている話の
何倍もおもしろく感じる。
- 注意の仕方など人とと違い(年齢、時と場合)
- 外部とのやりとり(AIT) ... 上手くかなうことであつたら自然にサポート
[どんな時でも臨機応変に対応が求められる]
- 一人ひとりの性格・できること・できないことを把握
- 落ちつきあるクラスとそうでないクラスの違い 対処法?
- 自分らしき保育をみつめてあげたい。

教員より ↓ 他の保育を養成校にいらないで
新見公立学園「実地体験実習」 (新見公立大学の独自科目) 選択

- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的・経験的に肉を
- ② 医療・病児保育の現場に肉を、医療的知識を修得する
[マロニ可]

※ ほか、小学校以上の教員免許を取得する大学では
「学校体験活動」という単位を設けている所が99%
「実地体験実習」のレベル



<グループワーク>

病院... 医療知識との連携 正しい知識、正しく伝える 緊急対応
自治体からのおしつけ

② ... 判断力での成長の大きさ 環境変化 (同心担任)
年長者の身代り
裏の任せ(上)

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

たんぽぽ保育園では、病児保育士の方から実際に話を聞くことで、病児がどのような環境で保育されているのかを知るとともに、病児について知らないことが多く感じた。病児に対して出来る限り対応できる保育者として看護の知識も身につけていきたいと思った。保育士にも看護的な知識が必要だと感じた。

学内のシミュレーション実習では、子どもを預かる時に体温を保護者になすねたり、目視して子どもの顔色や体に異変がないかを確認することが大切だと学んだ。子どもは熱が体にこもりやすいので、熱が出たらすぐに親に連絡があるので、しばらく様子を見て判断することが大切だということが分かった。

新見保育所での実地体験実習では、これまでの保育実習とは違い、子どもと関わるだけでなく保育者として製作や掃除の大変さや大切さを教わる事ができた。夏に行ったので子どもたちは水遊びを行っており、楽しそうに遊んでいる様子を見て、今後保育者として子どもたちとそのような日々を過ごすのが楽しいなると共に子どもが存分に楽しめる遊びや環境を用意することができるよう遊びの知識を蓄えていかねばならないと感じた。
子どもを長期的な目で見た。壁面の工夫。環境整備の大切さ。子どもを受け入れ体制
 環境構成(子どもが主体的・意欲的)雰囲気作り(怖いと思わせない) 子どもの病気に合わせた対応

教員より

新見公立大学片仮「実地体験実習」

- ① 教育・保育・福祉の現場に相互的・継続的に関わる。
- ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する。

隣りの先生と話をし、職場の関係を築く。
先生の凄いなと思う所をほめて分らないことを聞く。

<グループワーク>

- 子どもが主体的・意欲的に遊べる環境構成が大切。
- 病院では、子どもを小怖くと思わせない雰囲気作りが大切。
- 病児保育施設では、子どもの個別のカルテを作り受け入れる体制が整っている。
- 子どもの病気に合わせた対応を行う。
一味違う保育士

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

初めての实地体験は中央病院で小児の予防接種の様子を見学させて頂きました。不安な表情を浮かべながら入室する子どもに対して、先生や看護師さんは「注射」などの言葉は使わず何気ない会話や達成感を感じることで子どもにやさしい支援を温かく和やかな雰囲気の中で行われていたことがとても勉強になりました。

病児保育施設「はほほ保育園」では、地域内初めての病児保育施設設立までの背景や困難等について教えて頂きました。また、設立後も、色々なニーズを踏まえて来園しやすいように保護者の声に合わせて連携する施設を増やしたり、支援方法を勉強したり等、真摯に向き合われていたことがとても印象的でした。子どもにカルテのようなものがあり、記録、支援等に対する考察などが書かれていて記録することの大切さも学びました。これから保育や病児保育について深く学んでいく学習2年間の時期にはこのような機会があり、より興味を深まり、視野も広がりました。

私は、新見市内の保育所では、新見保育所に4年生の6月3日から定期的に実習をさせて頂いています。卒論のために行っているという理由もありますが、新見保育所の先生方が優しく、子どもに対してよく考えて支援をしてくれることも勉強になります。壁面や製作遊びもネットまで見ることができたりはじめて、工夫がエッセンス、先生方がアレンジしているものもありとても面白いです。実地実習、魅力がある継続的に現場に入らせてもらうことは

7月20日
7月27日

職員より までの実習で見るとこの中で一番「子どもの成長を見ることができた。先生方の声かけや環境整備などの積み重ねが子どもの成長につながっているのだと実感することができた。」

- ・新見保育所の5歳児の環境構成 製作が自由にできる 主体的・意欲的 子ども同士で真似したり
- 7-1の仲裁 ・達成感 万能は保育士に近づく一歩 先生が提案している
- 病児保育に関する知識 注射 どのだけ子どもがストレスを受けないか 教材をどう使うのか
- ① 連携 ② 医療の正しい知識 保護者が安心して預けたい(実) 実習生というより補助の先生という立場で 見守ること
- ③ メリハリのある関わり 子どもたちの発達 子どもが持つべき役割を必要にして 子どもたちの達成感

- 職員より > 実地体験実習
- ① 教育・保育・福祉の現場に補助的、継続的に関わり
 - ② 医療・病児保育の現場に関わり 医療的な知識を修得する

←ザルワーク→

自分らしく出すことの難しさ、「自分らしく」を出す仕事は「楽しい」 近くの先生とたくさん話す
自分らしく話しかける

初任者 自分から聞かないことと聞く
先生は望んで見えていいなと思、(と)を口に出す 相手を警戒して
あまり壁を作らず自己開示をする

1. 2歳は絶対病気をもらう → たくさん食べる

教育は人から教える人の位置

- ① 教育、保育、福祉の現場に、補助的、継続的に関わり
- ② 医療、病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

たんぽぽ保育園の病児保育では、預かもらえる基準や、過去にあった事例から、自分であれば、どう対応をするか、たびを丁寧に教えて頂いた。インフルエンザの子どもは預かもらえるが、下痢の子は預かもらえない。それは病気の感染や病気が完治するまでの長さによって変わる。と知り納得した。見極めが難しい、と感じた。新見中央病院での学習では、予防接種についての話を聞いた。実際の接種の様子を見て、声かけや保護者対応を学んだ。注射が怖いと感じる子どもは、どわだわのストレスなく、注射を受けられるようにする。どうい環境構成、声かけをして、気が楽なようにする。が、大切であるように感じた。

健康の森学園や、上市認定こども園では、教材作成や、環境整備、保育補助などを行い、子どもたちとの関わり、教師の声かけ、教材を作成する時の工夫や子どもが過激な状況、安全に活動に活動できるような環境構成を学んだ。教材作成の時に、子どもがどうすれば、見やすく、分かりやすく、意欲を持てるようになるか、と考える作りかたをとても素敵だと思われ、私もそのように、一人ひとりに合わせていくべき引き出しのような

教具の作りかた

様々な工夫をしていきたいと思う。シミュレーション実習では、小田先生から、子どもの発熱時の後のケアの注意事項や、園での病気や怪我の対応、処置、聴診器の使い方について教わり、実際の保育場面を想定して活動ができて、とてもいい経験になった。

教員より

- ・子どもの準備が「できるような医療知識を持った保育士になる」強みになる
- ・環境構成、先生の連携、子どもの成長を見ることが◎
- ・自分らしさを持って保育をする。自分で壁を作らず、話しかける。思ったことを口で伝える

<グループワーク>

- ・好きな時間の時に、自分が必要なものを選んで、自分が必要時に好きなように製作ができる環境構成◎ (5歳児)
- ・けんかの仲裁の仕方を学んだ。(一人ひとりの話をし、かきと聞く)
- ・クラスの壁面に、自分が必要なものを見たり、見ともらえる。(達成感)
- ・万能的な保育士(看護もできる、親見だから)
- ・注射の和やかな雰囲気、病児保育の設立、設立後の困難。

病児

・木片のままではなく、先生のアレンジ、10日間で見られた成長。
壁面は、ひと味違う保育士になる。

第2回 教職・保育実践演習

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

○子ども同士のけんかについて。

- ・3歳児... 2人の意見を聞き、それを保育者が口に出して二人に伝える。
↳ 解決はいい、この仲裁は良かったのか、不安が残った。
- ・5歳児... 少々の仲介で自分たちで解決できている。
「時計の金針が00にたつたら貸す」と言うのが最初は嫌だった。
その時間よりも前に貸すことができた。嬉しかった。嬉しかった。
印象的だった。 → 子どもの年齢、発達、その子どもに合った関わりをしていくことが大切

○環境構成

- ・新規保育所5歳児の環境構成が大々好き。
- ・☆ 教材を廊下に置き、ハサミの1・テープはビニール袋を用意したワゴンを保育室に置く、という環境構成。
- ↳ 子どもが好きな時に自分で好きなものを作ることを大事にする。主体的。
制作物を見たが、皆それぞれ違ったものを工夫して作った。友だちのものを真似して、と様々な姿が見られた。
意図的に取り組める。

教員より

○実地体験実習

- ① 教育、保育、福祉の現場に 補足的・系統的に関わり。
- ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する。

※ 小学校以上「学校体験活動」という単位で設けるところ多い。

- ・子どもの育ち
- ・保育者連携
- ・環境構成
- ・自分らしくたのびながら、隣のクラスの先生と話す。
- ・おどろいた！ 素敵！ これ口に出して伝える。
- ・病気持ちう、ちゃんと食べよう！！

<グループワーク>

達成感 壁

・病児：看護の知識、万能な保育士に近づくと一歩

・予防接種、ハイハイ、たのびが困難な。

・病児保育 困難、一人ずつのケア その子どもに合わせた支援、記録書くこと

・先生(優) 万が一のケア工夫、子どもの実態に合った、系統的(00問を自分からたのび、積み重ねが、子どもの成長に繋がります)

・預かる基準

・注射、ストレスは気をつけておこなう

・色んな選択肢

・関わりは3と見守りも3。

・ひと味違う保育士

- ・一年後、半年後の成長
- ・気軽なふざけ、
- ・子ども一人ひとりの壁面作成と子どもとの関わり
- ・医療、病児保育、
- ・ワゴン
- ・年下

- ・2年後の姿、成長を感じられた。
- ・教材作成

○実地体験実習の振り返り

ゲストティーチャー：入江先生

経験したこと、学んだこと、今後の課題等

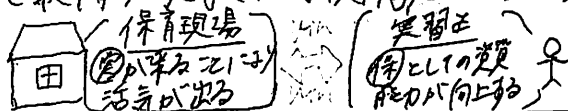
- ・ 99職種連携の重要 (保育所と医療機関など)
 - ・ 保育士が医療の知識を持つことの重要性
 - ・ 園で子どもにトラブルが起ったときの診断の仕方
 - ・ 保護者の方とのやりとりの重要性 (食欲、便、体調)
 - ・ 保育士は医師ではないので、子どもの症状や病身について断定してはいけず
 - ・ 保育者は子どもと保育する以外の場面でも子どもの周りの環境を整えつつ、指導案と作ったり等々こなさなければならない
 - ・ 子どもの成長が一番近くて感じる場所である
- 今後の課題
- ・ 医療の知識を現場で使えよう
 - ・ 月末の保育・仕事をいかに効率よくできるか ← 時間を大切にしよう

教員より

新見公立学版「実地体験実習」

← 他の保育士養成校にはありません。
(新見公立大学の独自科目) (選択科目)

- ① 教育・保育・福祉の現場から補助的・継続的に関わる
 - ② 医療・病児保育の現場に関わり、医療的な知識を修得する
(取捨の面接もアポイント済み)
- ※ なる、小学校以上の教員免許を取得する大学では「学校体験活動」という単位を設けているところが多い。



<グループワーク>

実地体験実習という特別な実習があることで、保育実習とは違った視点でめらめらの学びや発見がありました。

この経験と学びとして保育現場で活かしていきたいと思っております。
長期的に少しずつ積み上げてきた経験が自分の力になっていることがわかっていきました。医療の知識を深めたいので、復習していきたいと思っております。

自分らしい成長を → 自分らしいと出る、隣の先生と話をすると

自分らしい所と関る → 先生の色を見る → 子どもの話をよく聞くことが大切